

●エリザベスさんについて

オブエザ・エリザベス・アルウォリオさんは、1967年、ナイジェリア南東部のデルタ州に生まれました。

人道的活動

エリザベスさんは1991年ごろ来日し、2011年、「不法滞在者」として入管に収容されました。エリザベスさんは困っている人・苦しんでいる人がいると黙ってはいられない人です。収容中も病気で苦しむ人や妊婦さんたちが放置されているのを見て、職員に抗議するなど行動しました。そして同年3月11日。牛久入管も地震で激しく揺れ、収容者を部屋に閉じ込めたまま職員たちが逃げてしまった後、恐怖で泣き叫ぶ仲間たちにエリザベスさんは「落ち着いて、あなたの神様に祈って」と、大声で励まし続けたといいます。

仮放免後も日本の各地からの助けを求める声に応えて行動する彼女の姿はNHK ETV特集『エリザベス—この世界に愛を』(2021年)で広く伝えられ、多くの視聴者的心を捉えました。

自身の仮放免証明書類や食料などを詰め込んだスーツケースを杖代わりに、膝関節症の両脚の痛みをこらえながら、生活のほとんどの時間を救援活動に費やすエリザベスさんの存在が、どれだけ困窮している人々を支え希望となっているか、はかりません。

ビアフラ独立運動

エリザベスさんの故郷デルタ州はビアフラと呼ばれる地域にあります。ここでは長い間ナイジェリアからの独立を求める運動があり、彼女の幼年時代に起きた紛争では、200万人の人々が死亡、とくにビアフラ側の女性や子どもが飢餓で亡くなりました。政府軍に制圧されたものの、抵抗運動は今も続いており、エリザベスさんも独立を願う民族組織の海外メンバーとして活動しています。

しかし、そのことが彼女の立場をより危険なものにしてしまいました。ナイジェリアに帰ると反政府運動家として逮捕され拘禁される恐れがあるのです*1。

そのうえ宗教対立により迫害されるキリスト教徒でもあることも、エリザベスさんの身をより危険なものにしています。いま、エリザベスさんをナイジェリアに送還することは絶対に避けなければなりません。

難民申請

これまでエリザベスさんは2回、難民申請を行っています。

日本は難民の基本的人権を保障する国連の難民条約に加盟していますが、難民認定率は非常に低く、国際的には通用しないとみなされています*2。今回2回目の難民申請が不認定になり、人道的な見地から滞在を許可する「在留特別許可」の申請も認められませんでした。

難民条約には、「難民を彼らの生命や自由が脅威にさらされるおそれのある国へ強制的に追放したり、帰還させてはいけない」と書かれています（第33条）。今回のエリザベスさんの難民不認定は明らかにこの条項に反しており、不公正な審査結果と言わざるを得ません。

支援を！

10月24日午後、品川の東京出入国在留管理局で、私たちは2回目の難民申請と在留特別許可の審査結果をエリザベスさんと共に待っていました。その間も入ってくる助けを求める電話に、自分自身大きな不安の中にいるにもかかわらず、エリザベスさんは冷静に応対し相手を励まし続けていました。

無慈悲な難民不認定の結果を言い渡されたその夜、エリザベスさんは親しい友人に、このように語っています。

日本での30年余りの人生が一方的に奪われてしまったように感じる。

今の私は、いったいどこへ行けばいいのか、どうすればいいのか本当にわからない。
とても混乱しています。

人権・健康・経済力などが十分ではないにせよ保障されている、自由な世界に住む私たちは、困難な状況から救いを求めてやってくる難民の支援や政府の難民政策に关心を持ち、広く世界の人々と手を携え、平和な世界に向かって行動する責任があると思います。

私たちは引き続き、エリザベスさんを支援し、難民許可、在留資格を求める署名を集め、入管に提出します。それに加えてエリザベスさんの裁判費用と彼女を日夜悩ませている両膝関節症の手術費のための募金活動を行うことにしました。

みなさま、ぜひここで私たちと一緒に政府の非人道的難民政策に憤り、昨今急激に勢いを増した差別的で不寛容な外国人排斥の声に抗ってエリザベスさんを応援してください。そして、在留を望むエリザベスさん支援の募金運動にご協力くださいますよう、心からお願ひいたします。

注

- * 1 ビアフラ独立運動 ナイジェリアには多くの民族があり、エリザベスさんはある少数民族の一員である。1968~70 年、ナイジェリア南東部のイボ族を中心とした少数民族がビアフラ共和国として分離・独立を宣言し、ナイジェリア連邦政府と内戦になった。戦争は独立派の敗戦で終わったが、その後も独立派への弾圧が続き、指導者らが投獄され、拷問を受けている。争いの背後にはキリスト教とイスラム教の対立もあり、独立運動派の多くがクリスチヤンであるためイスラム教徒から攻撃を受けることが多い。現政府の実権を握るのはイスラム教徒。アムネスティインターナショナルの最近の調査では、ビアフラ独立運動を支援する平和的な抗議運動を行っていた人々のうち少なくとも 150 人がナイジェリアの軍隊により射殺されたという。
- * 2 2024 年の日本の難民認定率は 2.2% (190 人)。他の先進国で最も高いのはカナダで 70% (48,671 人)、低い方の米国でも 57.7% (35,701 人)。法律家や研究者は、日本の難民認定率が低いのは、主に誰を難民とするかの基準、および手続きが適正に行われているかの基準に問題があるためと指摘している。(<https://www.refugee.or.jp/> より)